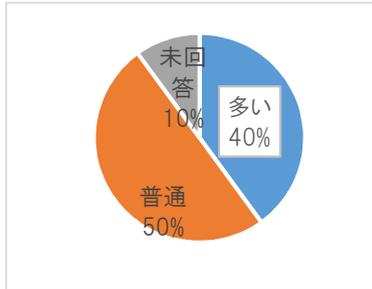


平成30年度広報紙モニターアンケート結果（概要）

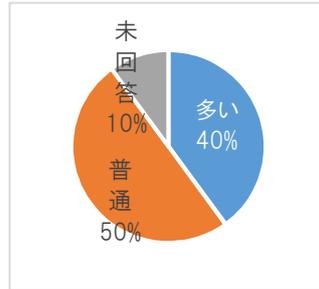
毎月発行している町の広報紙『広報ことうら』について公募により決定した5名のモニター（30代～70代）からいただいたご意見等の概要は次のとおりでした。

①広報紙全体を通して

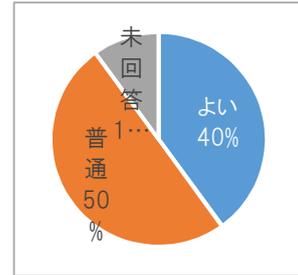
全体のページ数（平均20ページ）



情報量や文字数



デザインやレイアウト



②表紙の印象について

よい・・・90%

普通・・・10%

（コメント）

- ・表紙写真はその冊子を読むか読まないかの入口となります。同じ目線で正面から対象物に向きあうほうがよい。（3月号はのびのびとした子どもを正面から撮っていて、読者をひきつける）
- ・8月号は夏にふさわしい印象的なものであった。今後も町の自然や歴史のPRになるものを撮ってほしい。
- ・表紙のコメントも大きな要素。
- ・表紙の写真は多くて3枚まで、たくさんあると見苦しい。

③特集について（月によってページ数が変動2～6ページ）

内容・読みやすさ・・・よい 60%、普通 40%

写真や図の量・・・多い 30%、普通 60%、少ない 10%

特集のページ数・・・多い 50%、普通 50%

（コメント）

- ・予算説明は2ページにまとめられていてよい。
- ・健康についての特集は専門的で読みづらい。文字が多い。
- ・8月号の山の特集は良かった。分かりやすく、行ってみたいと思った。
- ・アンケートを反映してきているからか、読みやすいものとなってきている。
- ・同じような写真は何枚もいらない。
- ・チャイルドシートの無料譲渡会など、もっとリサイクルできる仕組みがひろがればよいですね。

④読みやすさについて

・タイトル付けは大きな要素。目を惹くタイトルが多くなり、毎号良くなってきている。

・『写真は大きく、文章は短く』を目指してほしい。

⑤連載シリーズについて

- CDK（慢性腎臓病）シリーズ
 - ・専門的で難しい。文字を減らして行ストを挿入してほしい。
- 地域おこし協力隊シリーズ
 - ・何をしているのかわからない町民が多い。もっとPRの場が必要。
- 輝くひとシリーズ（地域でがんばっている人を取材）
 - ・町内でこんな人がいるんだと感心するとともに、励みになった。読むのが楽しみ。
- 斎尾廃寺跡・大高野官衙遺跡シリーズ
 - ・貴重な文化財のことがわかって楽しいコーナーであった。
 - ・昨年発見された「八寺」について記載すべきであった。

⑥お知らせ版について

- ・お知らせ版は不要。
- ・本紙に掲載すべき。
- ・お知らせ版がカレンダーになっていて読みやすい。もっと行事を入れ込んでほしい。

⑦自由意見

- ・地域の活動や地域カフェも紹介してほしい。
- ・町の歴史、文化、自然をシリーズ化してほしい。
- ・町のグルメや会社も特集してほしい。
- ・県政だよりは読みやすく、ページ数（16ページ）も良いため、参考にされたい。
- ・後半にいくほど字が多くなり、読みづらいため、図やイラストを入れてほしい。
- ・お知らせなどの情報は『こんなのがあります』ではなく『こうしましょう』という具体性が必要。
- ・町の人には意外と地元を知りません。いろいろな観光名所等を掲載してほしい。
- ・トレーニングルームなどは知っていますが、忙しくていけません。家で簡単にできる体操を掲載してほしい。
- ・10代、20代向けの内容にすれば行政に関する関心度も高まると感じる。
- ・小さい写真がたくさんあるより、大きい写真を1枚（パッと見てわかる写真）をのせて視覚的に伝える。
- ・町報は町民のためのもの、町民主体の内容になれば町のことにも関心を持ち、好きになるはず。
- ・町内のウォーキングに最適な場所の紹介やお花見スポットを掲載してみては？

……………ご意見をいただいて……………

たくさんの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

ご意見については反映できるものは、随時改善を進めてまいります。

- ・専門的な内容はイラストや図解などを挿入する。
- ・短いタイトルでも内容がわかるような工夫をする。
- ・文章は短く、簡潔に表現する。…など

また、次年度からご意見をいただいた体操・歴史文化のシリーズや地域サークルなどの特集を盛り込みました。今後も皆さんからご意見をいただき、より親しみやすい広報紙、町民の皆さんにとって一番身近な冊子となる広報紙を目指していきます。